

① 筒井功 著

『ウナギと日本人： "白いダイヤ"のむかしと今』

(河出書房新社)

今年も暑い夏がやって来ましたが、この時期の風物詩は何と言っても土用の丑の日のウナギですね。本書によると、日本人は世界で一番のウナギ好き国民だそうです。“白いダイヤ”というのはシラスウナギの事で、近年漁獲量が減って資源枯渇が問題になっています。

本書では養殖、けなげな一生、信仰と宗教など、ウナギにまつわる様々な話題を紹介しています。読み進むと、いかに日本人の生活と深く関わっているのかを痛感します。一読して、ウナギの行く末に思いを馳せてみてはいかががでしょうか。(T.F.)

664.695 ||Tsu

③ 遠藤保仁 著

『変えていく勇氣： 日本代表であり続けられる理由』

(文藝春秋)

著者が日本代表であり続けられる理由として、勝負に徹するか、スタイルをつらぬくかの決断と、決断を変えていく勇氣が、経験を元に書かれています。

サッカーを通して人生を、仕事を生き抜く勇氣のヒントを汲み取れる一冊ではないでしょうか。

「サッカーは、ひとつの答えがあるのではなく、人が考える数だけ正解がある。だから、サッカーは楽しい」(M. F.)

783.47 ||End



② スティーヴ・デイヴィ 著、村田綾子 訳

『世界のお祭り百科：ビジュアル版』

(柘風舎)

世界では、豊作や無病息災などを祈願してカーニバルや牛追い、収穫祭などの様々なお祭りが行われています。本書は、何世紀も前から続く土着の伝統行事から民衆の手でユニークに発展した奇祭まで、誰でもが気軽に参加できる500の祭りを選びすぎりグラビアをふんだんに使って紹介しています。

祭りという行事の、日常からかけ離れた特別な日の装束や食べ物、歌と踊り、人々の祈っている姿を通して多種多様な民族の文化に触れることができます。(S.S.)

386 ||Dav

④ 渡部泰明 編；上野誠〔ほか〕執筆

『和歌のルール』

(笠間書院)

和歌と言えば、古典文学によく出ますので、いかにも難解だという先入観が付きまわってしまいます。しかし編者は「ルールさえ知ってれば、和歌は、今よりずっと楽しめる」と述べています。

本書では和歌を楽しむための10のルールが紹介されています。枕詞や掛詞など皆さんが良く知っているものの他に、物名(もの)の様な余り聞かないものもあります。物名は和歌の中に何かの言葉の隠しておく技法です。例えば「憂く干ず(うくひず、つまりウグイス)とのみ」の様に。

ルールを知っていても、自分で作ろうとするのは容易ではありません。しかし、どんな技法が和歌に隠されているかが分かるだけでも、和歌に対する見方が大分変わると思います。(H. I.)

911.1 ||Waka